

●宮崎 博幸さん (千葉県保険医協会)

マイナンバーカードによるオンライン資格確認システムのトラブル事案アンケートを実施。448件回収。システム導入は8割。法律は通ったが医療機関は保険証廃止に反対。トラブルも多いとの報告あり。調査では、義務化に対応している医療機関の6割がトラブルを経験し、保険証情報の反映不良が主な問題。読売新聞の社説などでも取り上げられている。世論を喚起し、法律を廃止させる運動につなげていきたい。

●岩崎 勇さん (全日本年金者組合千葉県本部)

2012年に年金を2.5%引き下げる決定が裁判の発端となり、5000人以上の組合員が提訴。最高裁での審理が進行中。物価上昇に見合う引き上げが行われるべき。実際には1.9%しか上がらず、物価と比べて7.3%下がっているため大問題。政府は65歳以上の高齢者に対して働く機会を確保し、雇用の措置や年金支給開始年齢の引き上げを進める方針。アンケート・証言など集める取り組みを進めたい。

●永島 達哉さん (千葉県医療労働組合連合会)

コロナの状況は一部では収束しているように見えるが、医療介護職場では深刻な問題が起きている。過去8つの波を乗り越えてきたが、今は人員不足と退職者の増加がある。募集人員の充足率は約7割で、多くの医療機関が不足。看護師や介護職の数がさらに減少し、将来の感染症や自然災害に備えることが困難。看護師の自殺事件など報告されており、組合は賃上げと新たな人材を呼び込むための魅力的な職場づくりをすすめる。

●實川 理さん (日本自治体職員労働組合千葉県本部)

県内の公立病院でも院内感染が出ていることに加え、地域医療から公的責任が後退させられている中、自治体一般が力を発揮し、5月27日、「東千葉メディカルセンター(MC)の不祥事の解明と信頼回復・地域医療の充実を考える市民集会」を開催した。

●山本 純子さん (千葉県保育問題協議会)

子ども家庭庁が発足。内閣府や厚生省、文科省の業務を一元化。しかし、幼稚園業務は変わらず、子どもに関する問題も未解決。削減された子育て予算を確保するため全国組織の保育改善委員会が設立された。保育士の国の配置基準の見直しと改善を求め。また、保育士不足や労働条件の改善必要。署名活動や陳情書の提出で国への意見書が流山市・柏市で採択。今後も運動を続け、若い世代の参加を得て子どもたちの命を守りたい。

●林 栄治さん (千葉土建一般労働組合)

社会保障の充実や運用改善を求めて活動してきた。憲法13条と25条に基づく社会保障制度の実践を目指し、学習、宣伝、署名活動に取り組み、地域社保協との連携も行っている。また、署名活動に力を入れ、地元国会議員への要請や全国集会に参加。医療保険制度の拡充や憲法に基づく社会保障の実現を求める署名活動にも取り組んでいる。引き続き他の団体や地域と連携し、社会保障の拡充を目指していく。

●櫻井まゆみさん (千葉県商工団体連合会)

国民の生活が困難になっており、値上げと借金が続き、商売が厳しい状況。インボイスは延期ではなく中止すべき。中小業者は苦境に立たされている。共済が重要で、助け合いが必要。一人ひとりが声を上げ、デモや様々な行動を起こすことが重要。しかし、こうした行動がテレビでは報道されず、怒りや不満が募る。

●浅野 涼平さん (全教千葉教職員組合)

千葉県では昨年度末に445人の教員未配置が発生。県民の会が未配置解消を求め3万筆の署名を提出。新規採用者は増加したが、本年度も約200人が未配置。その結果、不登校が増え、教育の権利が侵害されている。しかし、県教委の対応は教員募集のチラシ作成や教員の働き方改革の委託で助言をもらおうとするなど方向が違い抗議した。未配置による子どもたちへの影響を広く知らせる必要がある。県民と子どもたちに豊かな教育を提供するために、全力で取り組む。

●武田 清春さん (社会保障推進銚子市協議会)

コロナ禍で活動制限がある中、以下の5点実現。1) 難聴者向けのヒアリンググループ、2) 学校給食の無償化(一部継続)、3) 介護事業所への感染防護用品支給、4) 要介護利用者の福祉タクシー券利用、5) コミュニティバスの運行開始(計画策定中)。さらに、7月には市民センターやコミュニティセンターでのWi-Fi設置の予定。

●新山 晴美さん (社会保障推進柏市協議会)

月1回の幹事会を開催。ヒアリンググループの使用で、交流が広がった。また、キャラバン、個人請願、年末相談会を運動の軸にして、市民団体の交流ホームページやフェスタへも参加。難聴者問題にも取り組み、学習会の成功により耳の聴こえにくい人やその家族の苦勞が明らかになった。柏市と連携し、一歩踏み出す流れができています。

●田中なつみさん (社会保障推進我孫子市協議会)

コロナ禍で会議が難しい中、社保協キャラバンは頑張っており取り組んできた。しかし、マイナ保険証や保険料の増加など様々な問題が重なり、いまこそ社保協の出番。5月29日に3年ぶりに対面総会、学習もした。国民健康保険料の値上げに怒りを感じ、キャラバンで訴えたいと考えている。キャラバンで取り組んだ保育園の医療的なケアに関して、看護婦の採用や保育士の研修などが実現。補聴器や給食の問題でも運動すすめている。

●生駒 敦史さん (社会保障推進流山市協議会)

昨年度の社保協は「闘う」ことを目標に、陳情や署名提出など積極的な行動を開始。キャラバンで10年分のデータを一覧にして懇談予定。高齢者に補聴器の助成を求める署名を提出。議会で医療費無償化を陳情し採択。県議選で介護保険制度改善と医療・介護の安全を要請。生活保護基準引上げを求める意見書提出。流山社保協として補聴器助成を提出。東葛地区で共通署名を広める構想中。75歳以上の医療費問題に声を大にして宣伝していきたい。